

星空観望会

毎週土曜日 午後7時～9時
場所：西合志図書館天文台
参加費無料
※雨天・曇天の場合中止します。
天候が優れないときは、来館前に電話でご確認ください。

☆自宅で観る12月の星空☆

東の空高くに、ぎょしゃ座のカペラが輝いています。アルデバランとおうし座の顔を形作るヒヤデス星団も同じくらいの高さに見えます。オリオン座はベテルギウスとリゲルの2つの1等星があり、さらに三ツ星を含む明るい星の集まりで見つけやすいと思います。東の空には火星も赤く輝いています。19日に地球と最接近し観望には絶好期を迎えます。

図書館掲示板

★西合志図書館 (☎242-5555)

マインドシアター (入場無料)

とき 12月22日(土) 午後1時～
ところ 西合志図書館「集会室」
題名 『トムとジェリー テイルズ1』

おはなし会 (入場無料)

とき 毎週土・日曜日 午後2時～
12月1・2・8・9・15・16・23日
1月5・6・12・13・19・20・27日
ところ 西合志図書館「おはなしの部屋」

★西合志図書館天文台 (☎242-5555)

ふたご座流星群観望会 (入場無料)

とき 12月15日(土) 午後7時～9時
(雨天・曇天時中止の場合あり)

火星観望会 (入場無料)

とき 12月22日(土) 午後7時～9時
(雨天・曇天時中止の場合あり)

※12月29日(土)の星空観望会はお休みします。

★合志図書館 (☎248-5754)

ふれあい映画会 (入場無料)

とき 12月16日(日) 午後1時30分～
ところ 「多目的研修室」合志図書館よこ
題名 『ポーラー・エクスプレス』

ふれあいおはなし会 (入場無料)

とき 毎週土曜日 午後2時30分～
12月1・8・15・22日
1月5・12・19・26日
ところ 合志図書館「おはなしコーナー」

年末年始の休館・開館

西合志図書館・合志図書館・泉ヶ丘市民センター図書館は12月28日(金)～翌年1月4日(金)、年末年始のため休館します。2008年は1月5日(土)午前10時から開館します！

休館日の資料の返却

図書・雑誌のみ、各館に設置している返却ポストへご返却ください。CDやビデオテープ、DVDなどの視聴覚資料は、破損の恐れがありますので返却ポストへは入れずに、必ず開館後カウンターまでご返却ください！

西合志図書館(正面玄関左側)・合志図書館(ヴァイプル正面玄関脇)の返却ポストは、年末年始の休館中も利用できます。

泉ヶ丘市民センター図書館・須屋支所は、12月29日(土)～翌年1月3日(木)の施設閉庁中は利用できませんのでご注意ください。

12・1月の休館日

12月3日(月)・10日(月)・17日(月)・25日(火)・28日(金)～1月4日(金)
1月7日(月)・15日(火)・21日(月)・28日(月)・31日(木)

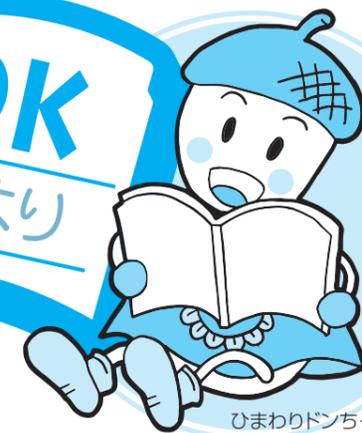
移動図書館車

「ひまわり ドンちゃん号」巡回

現在、合生・須屋・野々島・上生を巡回しています。年間巡回予定表は西合志図書館・移動図書館車にあります。

BOOK

図書館だより



西合志図書館 (☎242-5555)
合志図書館 (☎248-5754)

『中原の虹』④ 浅田次郎 著

清王朝の滅亡と新しい中国の歩みの中で生きていくさまざまな人物を描いた歴史大河小説が、完結しました。史実と空想を見事に組み合わせ、どんどん物語に惹き込まれていきます。

この作品は、浅田次郎の著書の中でも最高傑作と評判の高い「蒼穹の昴」の続編的小説であり、ぜひこちらから読むことをお勧めします。



『人類の足跡10万年全史』

スティーブン・オッペンハイマー 編

全人類の共通祖先は、アフリカにいた一人の女性までさかのぼる……。1988年に発表されたミトコンドリア・イヴ仮説は世界に大きな影響を与え、以降、世界中でDNA分析による人類系統樹づくりが進められている。ヨーロッパ人、モンゴロイド、先住アメリカ人について、従来の常識を覆す衝撃的な見解へと導いていく。壮大な歴史を読み解く話題作です。



新刊お薦め本

新着本

一般書

『バカにならない読書術』 養老 孟司
『江原啓之の本音発言』 江原 啓之
『7日間でキラキラになる★』 石井 裕之
『仙台ベストスポット 2008』 昭文社
『関口知宏の中国鉄道大紀行1』 関口 知宏
『女子の本懐』 小池 百合子
『99%は理論力1%は直感力』 竹内 薫
『体を温める』と病気は必ず治る 実践編 石原 結寛
『賞味期限がわかる本』 宝島社
『郁恵のおいしい食卓』 榊原 郁恵
『with高野優ハッピー育児セラピー』 今泉 岳雄
『夫婦純愛』 金 美齡
『四方を統べる神』 デイヴィッド・エディ
『プリンセス ダイアリー クリスマスプレゼント篇』 メグ・キャボット

児童書

『図書館って、どんなところなの?』 赤木 かん子
『ひとはみな、ハダカになる。』 バクシーシ山下
『不自由な手でできしめて』 島田 和子
『トイレのおかげ』 森枝 雄司
『リロアンドスティッチわいわい大辞典』 講談社
『忍者サノスケじいさんわくわく旅日記1・2』 なすだ みゆる
『アップルパイたべてげんきになあれ』 茂市 久美子
『クリスマスの妖精ホリー』 デイジー・メドウズ
『ジュリーの秘密』 コーラ・デイラー
『はやくかえってこないかな』(絵本) 鈴木 永子
『きかんぼねずみのクリスマス』(絵本) 今村 葦子
『カンガルーママのすてきなポケット』(絵本) 二宮 由紀子
『エルマーとにじ』(絵本) デビット・マッキー
『かしこいカンフ』(紙芝居) ラメンドラ・クマール



『飛ぶ教室』 エーリヒ・ケストナー 著

クリスマスが近づくと毎年手にとってしまうのが、ケストナーの『飛ぶ教室』です。クリスマス間近のドイツ、ギムナジウムに通う少年たちの日常を書いたこの本が出たのは1933年。子どもの頃に読んだ人も多いのではないでしょうか。派手さはありませんが、友情、勇気、子どもたちを見守

る大人たちのあたたかなまなざしが丁寧に書かれていて、改めて大切な気持ちを思い出させてくれます。年末ほっとしたい人におすすめです。図書館には他にも、クリスマスの絵本などたくさん所蔵しています。一度見に来てください。

今旬の本